

## 第2回 薬物乱用防止高校生会議

### (1) 都立松原高等学校

日時：令和2年8月19日（水曜日）午後1時から午後3時30分まで

場所：東京都薬用植物園

### (2) 都立芦花高等学校

日時：令和2年8月21日（金曜日）午後1時から午後3時30分まで

場所：東京都薬用植物園

#### 1 講義「規制植物について」

講師：健康安全研究センター薬事環境科学部

医薬品研究科主任研究員 中村 耕

#### 2 実習 規制植物の見分け方

園内見学

都立松原高等学校



都立芦花高等学校



### **第3回 薬物乱用防止高校生会議**

**日時：令和2年11月10日（火曜日）午後3時30分から午後4時45分まで**

**場所：都立松原高等学校、都立芦花高等学校、都庁**

**※オンライン会議方式で実施**

- 1 開催（挨拶）
  - ・参加者自己紹介
  - ・第1回、第2回会議を踏まえての質疑応答
- 2 成果物（リーフレット）作成に関するスケジュール説明、注意事項
- 3 連絡  
今後のスケジュール等

### **第4回 薬物乱用防止高校生会議**

**日時：令和2年11月19日（木曜日）午後3時30分から午後4時45分まで**

**場所：都立松原高等学校、都立芦花高等学校、都庁**

**※オンライン会議方式で実施**

- 1 開催（挨拶）  
これまでの会議を踏まえての質疑応答
- 2 参加生徒によるディスカッション
  - ・メッセージの検討
  - ・掲載内容の検討
- 3 連絡  
今後のスケジュール等

### **第5回 薬物乱用防止高校生会議**

**日時：令和2年11月24日（火曜日）午後3時30分から午後4時45分まで**

**場所：都立松原高等学校、都立芦花高等学校、都庁**

**※オンライン会議方式で実施**

- 1 開催（挨拶）  
これまでの会議を踏まえての質疑応答
- 2 参加生徒によるディスカッション
  - ・メッセージの検討
  - ・掲載内容の検討
- 3 連絡  
今後のスケジュール等

## 第6回 薬物乱用防止高校生会議

### (1) 都立松原高等学校

日時：令和2年12月21日（月曜日）午後1時15分から午後3時まで

場所：都立松原高等学校

### (2) 都立芦花高等学校

日時：令和2年12月22日（火曜日）午後1時15分から午後3時まで

場所：都立芦花高等学校

#### 1 講演「薬物乱用防止講義」

講師 警視庁組織犯罪対策部組織犯罪対策第五課

警部 井上 泰伸 氏

#### 2 質疑応答

#### 3 参加生徒によるディスカッション

- ・メッセージの検討
- ・掲載内容の検討

### 都立松原高等学校



### 都立芦花高等学校



**第7回 薬物乱用防止高校生会議 ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止した。**

**(1) 都立松原高等学校**

**日時：令和3年1月14日（木曜日）午後3時40分から午後4時40分まで**

**場所：都立松原高等学校**

**(2) 都立芦花高等学校**

**日時：令和3年1月15日（金曜日）午後3時50分から午後4時50分まで**

**場所：都立芦花高等学校**

1 講演「薬物依存症から回復するまでの体験談」

講師 NPO法人日本ダルク職員

2 質疑応答

## 4 高校生会議に参加して



校長 造作 聡美

今年度の薬物乱用防止高校生会議に、本校の2年生5名、1年生3名、計8名の生徒が同じ世田谷区内にある都立芦花高等学校のみなさんとともに参加する機会を与えていただいたことに心から感謝しております。活動の時間や方法も例年とは異なり、ご指導にあたられたみなさまのご苦勞やご負担も大きかったことと存じます。ご指導をいただきました関係機関のみなさま、東京都福祉保健局健康安全部薬務課、並びに、東京都教育庁指導部指導企画課のご担当のみなさまに深くお礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けながら始まった年度当初は、この会議の活動がどこまでできるのであろうかという不安がありました。臨時休業、分散登校、校内に全校生徒が揃ったのは7月の声をきく頃でした。感染拡大防止の観点から、教育活動を行う上での制約もある中、短い夏季休業の終わり頃から活動が始まることになり安堵しました。

東京都薬用植物園での講義、実習、見学は、得難い経験です。この会議に参加しなければ、同園を訪問する機会はなかったであろうと思います。薬物の乱用状況や薬物事犯の取締状況を伺って得た情報や知識、実際に体験して学んだ規制されている植物の見分け方、これらを糸口として、更に自分たちで調べる、調べたことから問いを立てて、みなで考えることを繰り返しました。自分の考えを伝え、仲間の考えを聞き、質問をし合ってお互いの考えを深める時間は、人との関わりが限られる今年度の活動の中では大変貴重であったと感じます。

この活動を通して、本校の生徒たちは、薬物乱用を「どこかのだれかの問題」ではなく「自らにも関わる問題」ととらえること、薬物の害悪を正しく理解すること、そして、薬物の誘惑を自ら排除する力を得ることができたのでしょうか。さらに、自らが学んだことを同じ世代の仲間に伝えることによって、一人でも多くの仲間が薬物と関わらないようになるための援助ができたのでしょうか。生徒たちが発信するメッセージをご覧いただくとともに、本校の生徒や他校の生徒の今後を見守り続けていく中で、その答を確かめていくことが私たち大人の役目ではないかと思います。若い世代に限らず、どの世代の人たちも薬物によって人生を壊すことがあってはいけないと願う一人の人間として、また、教育に携わる者の一人として、生徒たちの活動が意義あるものとなることを信じています。

生徒たちにとって、この会議の活動終了こそが本当の意味での薬物乱用防止への第一歩だと私は考えます。

指導教員 関口 湧芽子

本校は、薬物乱用防止高校生会議に初めて参加し、初任者の私個人としても初めての外部折衝の機会となりました。そして、コロナ禍での開催ということで、オンライン会議を中心に参加させていただきました。初めてづくしの本会議への参加でしたが、薬務課の山田様、江口様の手厚いご指導により、生徒たちの充実感に満ちた表情を見ることができました。

生徒は、オンライン会議後にも自主的に話し合いを行い、次回会議に備える等、積極的にリーフレット作成に臨みました。また、東京都薬用植物園での校外学習や講演会を通じて、薬物の恐ろしさを実感することができたのではないかと思います。本校の代表として、薬物乱用の恐ろしさについて考えを深めることができた参加生徒達は、さらに今回の学びを同世代へ説得力をもって発信していつてくれるはずです。

厳しい情勢の中、このような貴重な機会を設けてくださった関係機関のみなさまに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

1年 生徒A

今回、私は薬物乱用防止高校生会議に参加し、薬物に関するより深い知識が身に付き、今後どうやって薬物に関わらず正しい人生を歩むべきかを改めて考えることができた。

私はいままで、薬物の危険さを中学校で学び分かった気でいた。しかし実際は、服用した本人が幻覚や自我のコントロールができなくなり、それによって事故を引き起こし、他者にも被害が出る可能性があるというのを具体的な事例とともに学んだ。また、実際に薬物をこの目で見ることによって理解しやすくなり、薬物への恐怖心をより感じた。

私は、今回学んだことをしっかりと受け止めて、今後に生かしていきたい。そして同世代の皆に薬物に対して正しい知識を持ち、自身の人生を自身で守りぬいてほしい。

1年 生徒B

私は、今回薬物乱用防止高校生会議に参加できてよかったです。夏に薬用植物園に行つて、薬物のアサの葉やケシを見ることができたのは私にとって貴重な体験になりました。普通に生活していたら見ることができないからです。また、薬用植物園で聞いた話は薬物の知識を更に深めることができました。

刑事さんのお話も聞く機会がないので、とても貴重なお話を聞くことができました。薬物を使っている人を見分ける方法が難しいというお話をされていたのに驚きました。薬物を使っている人は皆、特徴があるものだと思っていたからです。警視庁の動画はとても衝撃的な内容でしたが、高校生に限らず、世の中の人にみてもらいたいと思いました。

今回の薬物乱用防止高校生会議で、薬物の危険性がとても分かりました。身近に感じていなくても危険はすぐ近くにあるということを知ったので、学んだことを多くの人に発信できたらいいなと思います。

## 1年 生徒C

薬物は危険。小中学生の頃、皆さんも薬物乱用防止の講習を受けたと思います。そこで教えられ続けてきたのがこの言葉です。しかし、まだまだ未熟だった当時、話を聞くだけでは危険さが分かりづかったことも事実でした。今回の薬物乱用防止高校生会議では、実物を見ながら話を聞き、今まで以上に薬物への理解や危険さを知ることが出来たと思います。その中で私が一番大切だと感じたことがありました。それは、薬物から身を守るためには自分自身だけでなく、誰かを頼ることも必要ということです。リーフレット内にもまとめてありますが、誘われ方の多くが人の心に漬け込んでくるような内容です。一人で抱え込まずに、自分の悩みを誰かに話してみてください。きっときいてくれる人が居るはずですよ。そして、これを読んでくれている皆さんも誰かの悩みをきいてあげてください。SOSを出せずに抱え込んでしまう人も多くいます。お互いに助け合って輝く未来を守りましょう。

## 2年 生徒D

薬物については前々からテレビやSNSで知っていましたが、今回のことで薬物の種類やそれぞれの異なる危険性などを知ることができました。

特に、薬物の中で比較的軽い症状の薬物だから大丈夫と想着いても、そこから薬物に対する抵抗が薄くなり他の薬物を始めてしまうというのは、なるほどと納得しました。

また、大麻の依存性、危険性はないという人は、もうすでに依存症なんじゃないかという考えは、ちょっとかわいそうだけど面白いなと思いました。

また、警察や薬物を否定する人は薬物の悪いところだけあげて否定している、なぜ始めてしまう人がいるのかを考える必要があると思います。そこには薬物によって、またはそれぞれの人によってさまざまな要因があり、薬物使用者イコール悪ではなくてそのような人達も被害者だと思うので、きちんと寄り添って否定するべきなのかなと思いました。

## 2年 生徒E

私は薬物について、中学生の頃から授業や講演会などを受けて薬物の恐ろしさを理解していましたが、今回高校生会議に参加し、より恐ろしさを理解することが出来ました。実際に植物園に行き、大麻の実物を見て、触れることで、普通に道端に生えていても気がつかないと思いました。さらに講演を聞き、自分で調べたことで、場の雰囲気を使ってしまいう恐れや、薬物だと分からないような形に加工されている物があることなど、様々な知識を得ることができ、薬物の危険性を理解しておくことはとても大事なことだと思いました。自分がしっかり理解しておかないと知らないうちに使ってしまうだったり、人から誘われても分からずに使ってしまうかもしれないと思います。今回高校生会議で学んだことを生かしてまずは、身近な人からでも薬物の危険性を伝えていきたいです。また、作成したリーフレットをより多くの人に読んでもらい、薬物の危険性を広めたいです。

## 2年 生徒F

今回、薬物乱用防止高校生会議を通して私は、薬物の危険さや誘われた時に断ることの大切さ、使ってしまった場合にどのような症状が起こるのかを改めて学ぶことができました。薬物は1度使ってしまうと、依存してしまう可能性が高く、幻覚が見え、自分が自分でないような感覚になってしまうということを調べたり、警察の方からのお話で知ることができました。誘い方にも様々な種類があり、「やせられるよ」や「身体に害はない」「スッキリするよ」など危険に感じないようなフレーズもあります。その時、場の雰囲気流されるのではなく、「結構です。」と断る勇気をもつことが大切だと思います。仲の良かった友達でも、誘い勧めるのは本当の友達とは言えるのか。本当に大切なら、勧めることはしないと思います。少しの勇気を出せるかどうかでその後の人生、楽しく過ごせるのか、孤独に過ごすことになるのか決まります。薬物は身近にあることを皆に伝えたいです。

## 2年 生徒G

私が今回薬物乱用防止高校生会議で学んだことはたくさんありました。薬物は中毒性が非常に強いこと、断りきれず無理矢理手を染められる場合があること、幻覚症状が激しく、生活が狂ってしまい、元に戻せないことなど多数です。植物園に出向き、大麻を実際に見る経験もできました。その中でも印象に残っていることは、再現ドラマで見た薬物で生活が実際に狂っていく映像です。ミュージシャンを目指していた彼女は、仲間にも勧められて薬物に手を出してしまい依存、夢もなくなり狂ってしまうという非常にショッキングな内容でした。また、芦花高校の方たちと意見を交換する時間もあつたのですが、近頃のコロナ禍の影響により上手くいかなかったことがとても心残りでした。

今回は松原高校を代表して、たくさんの経験と知識を得ることができました。これらを次は私が発信して、一人でも薬物乱用者が減るように努めていきたいと思います。

## 2年 生徒H

私は、今回の薬物乱用防止高校生会議で知ることができてよかったことや学べてよかったことがありました。

その一つとしてまず、大麻などの薬物ととても似ている花がいくつかあるということです。例えば、大麻とケナフなどがよく似ています。このような知識を頭の片隅に入れておくといつか役に立つ時が来るかもしれないので、知ることができてとても良かったです。

次に薬物の恐ろしさについて、改めて再認識できたことです。薬物乱用防止高校生会議に参加した生徒代表として、ここで学んだことを身近な人や知り合いに教えたいと思います。以上、私が参加して学べたこと、知ることができてよかったことについてです。

校長 海發 真一

令和2年度「薬物乱用防止高校生会議」に都立松原高校の生徒の皆さんと一緒に参加しました。コロナ禍で会議はオンライン実施になるなど、例年どおりの活動ができなかったことは残念でしたが、本校からは1・2年次の代表生徒が参加し、貴重な経験ができたことは大きな収穫です。中でも警視庁組織犯罪対策部による薬物乱用防止出前授業は大変有意義で、早速その様子を本校ホームページで御紹介しました。

心の健康問題をはじめ、薬物乱用や生活習慣病の兆候、性に関する問題等児童・生徒をめぐる健康課題に対応するため、学校における健康教育が重要視される中、都立学校ではこの一環として、保健の授業や外部講師を招聘した健康教室で薬物乱用防止に関する指導を計画的に行っています。

警察庁組織犯罪対策部が公表している「令和2年上半期における組織犯罪の情勢【暫定値】」には、今期における薬物情勢の特徴として次のことが挙げられています。

○薬物事犯検挙人員は、近年横ばいで推移しているところ、令和2年上半期は6,321人と前年同期より僅かに増加した。

このうち、覚醒剤事犯検挙人員は、近年減少が続く中、令和2年上半期においても3,837人と前年同期より減少した。一方で、大麻事犯検挙人員は、若年層を中心に平成26年以降増加が続いており、令和2年上半期も2,261人と過去最多となった前年同期より増加した。

○覚醒剤の密輸入事犯検挙件数は51件と前年同期より大幅に減少した。このうち航空機利用の携帯密輸は20件と減少が顕著。覚醒剤の密輸入押収量は99.8キログラムと前年同期より減少した。

関係諸機関の御尽力により覚醒剤事犯が減少傾向にある一方、若年層に対する薬物乱用防止の啓発推進が引き続き重要な状況となっています。小中学校における薬物乱用防止教室の成果を踏まえ、高等学校及び中等教育学校における指導のより一層の充実に引き続き努めていくことが大切であるとあらためて考えています。

薬物乱用防止高校生会議に参加した本校生徒からは、次の感想が聞かれました。

○薬物は普通に生活していれば全く関わることがない非日常のものだと思っていましたが、想像以上に身近に潜んでいることがわかりました。何てことはないふとしたきっかけで手にして依存症になるなど、薬物の怖さを学びました。

○薬用植物園を見学したり、講話をお聞きしたりして薬物が身体に及ぼす悪影響を具体的に学び、乱用防止啓発のリーフレットづくりに生かすことができました。

御指導いただきました東京都福祉保健局健康安全部薬務課、警視庁組織犯罪対策部、教育庁指導部指導企画課をはじめとする関係諸機関の皆様にご心よりお礼申し上げます。

指導教員 波多野 由賀里

東京都薬用植物園で講義していただきながら薬草や大麻の実物を見たり、警視庁の方の講義を受けたり、薬物乱用防止のリーフレット作成にかかわったりという貴重な機会を生徒と共に与えていただき、良い経験になりました。生徒の意見について「非常におもしろい。役に立つ」と都の担当の方に言っていたいてうれしかったです。リーフレット作成の上でターゲットである高校生の生の声が大切であるとお聞きして、なるほどと思いました。生徒にとっても、積極的に発言したことを評価していただけたというのは良い経験になったと思います。ありがとうございます。

警視庁の方の講演で観せていただいたDVDは迫力があり、薬物は恐ろしいと強く感じさせられました。

生徒達の話しからTwitter等のSNSの影響がいかに大きいかということは、都の担当の方も驚いていらっしゃいましたが、私にとっても驚きでした。

指導教員 尾崎 優

本年度は新型コロナウイルス感染症対策としてZoomを使ったオンライン会議ということもあり、例年通りに実施できるかと不安に感じていました。生徒たちは抵抗なく、さらに意欲的に取り組んでくれたので安心しました。社会が自粛ムードの中で人と接する機会が減っている中で、他校の生徒や警視庁の方と話し合う機会ができたことは生徒にとっても私自身にとっても良い経験になりました。

薬物については知識としてわかっているにとどまっており、自分の身近なものとは感じていませんでした。しかし、高校生会議で警視庁の方のお話や動画を拝見し、薬物に依存し、再犯を繰り返してしまう特徴と恐怖をより身近に感じることができました。

会議への参加やリーフレット作成に向けて学年を超えた協働作業を得て短期間で大きく成長していく生徒の姿に喜びを感じると共に、本会議で学んだ内容を生活指導部の教員として広く周知していきたく思います。

1年 生徒A

私がこの「薬物乱用防止高校生会議」をやった理由は、薬物犯罪について知りたかったことや啓発活動をしたいと思ったからです。

実際に植物園に行って本物の薬物を見たり、薬物犯罪の捜査、取締りをしていた人からのお話を聞くことができ、とても貴重な体験ができたと感じています。また、リーフレットの作成にあたり、そのために自分達で様々なことを調べ、意見を出し合い、自主的に働きかけ、啓発活動に向けた取り組みができたと思います。

私も将来は犯罪捜査や被疑者の検挙をする仕事に就きたいと思っているので、この薬物乱用防止高校生会議で学んだことを活かして、将来に向けて努力していこうと思いました。

## 1年 生徒B

私は今まで、薬物は普段普通に生活していれば全く関わることもない非日常的なものだと思っていましたが、今回の薬物乱用防止高校生会議を通して、想像以上に身近に潜んでいるということが分かりました。警察のビデオを見て、なんて事ないふとしたきっかけで手に取ってしまい、取り返しのつかないことになる、いつでもやめられるという考えが依存につながるということを学ぶことができました。小中学校でやった薬物に関する教室でも習わなかった事をたくさん知ることができて、とても勉強になりました。薬物の危険は街中やSNSなどどこにでも潜んでいて、誰かにとって無関係ということはありません。自分や周りの人が薬物に関わらないためには、正しい知識と強い意志が必要だと感じました。

## 2年 生徒C

最初は、薬物について軽く学ぶだけだと思ったが、薬用植物園に行って実物を見たり警察の方を呼んで貴重な話を聞くことができたりと、思っていたより充実していた。特に大麻の見分け方や薬物使用後の人生の話が印象に残っている。あれを見ることで、より薬物の恐ろしさを感じることもできた。

メインのリーフレット作りのための情報を調べる過程で、薬物が体にもたらす悪い効果や若者が大麻を使いやすい理由など身近に感じとれるものがたくさんあった。

今回、この会議に参加したことで、普段なら調べない、知ることのない薬物のことを知ることができたので、とても有意義な時間だった。

## 2年 生徒D

薬物は高校生に余りに無縁で非日常であると私は参加した当初は思っていました。それは私たちが良き大人に囲まれ守られていただけなのでした。

1歩でも間違った方向に自ら足を踏み入れてしまったら最後、薬物はすぐに私たちを飲み込み、非日常が日常に変わり、戻れなくなってしまいます。しかし、何より恐ろしいのは、多くの高校生がすぐ近くに存在している薬物と遥か遠い存在と認識し、薬物を忘れ、いざ目の前にした時に身を引く術も対処の方法も知らず、教えられても馬耳東風するという危機感の欠如です。

だからこそ、学を身につけた私たちが同年代の人たちに私たちだからこそ教えられることがあり、これ以上被害を増やさないためにも、必ず教えていかなければならないことです。

## 2年 生徒E

私は今回この会議に参加して、今までの自身の薬物への認識は実はあまり正しくなかったことを学びました。また、薬物の取り締まりを行う方々等のお話を伺って特に驚いたことは、今私達が危険視すべきは大麻であるということでした。その理由は、現在若者の間で大麻を使用することが増加しているからで、薬物といったら覚醒剤や危険ドラッグに気をつけようと考えていて、大麻はあまり関係ないと思っていた私は衝撃を受けました。大麻は世間であり危険ということが浸透していなく、安価なこともあり入手が簡単なため、十分に警戒することが大切なのだと感じました。他にも大麻の見分け方や海外で何故大麻が規制されていないのか等、参加することによって薬物への理解がとても深まったので、周囲で薬物絡みの事件が起こらないよう今回学んだことを発信していきたいと思います。

## 2年 生徒F

自分は、この薬物乱用防止高校生会議で、非常に多くのことを学びました。その中でも、自分に一番印象に残っているのは、警察署の方から話を聞いたときでした。リーフレット作成時に調べたりするだけでは分からないようなことまで聞くことができました。薬物は一度でも使用してしまうと、人生を壊しかねない非常に危ないものです。ネットには、薬物は害がなく依存性がないとか書いてあるところもありますが、薬物というものは一度使うとなかなかやめられず、自分や周りからどんなに勧められてもはっきりと断り、薬物の乱用はいけないことだと注意できるようにすることが大切です。たった一度の薬物の乱用で自分の将来を自分で断とうとしないでください。

## 2年 生徒G

私は薬物乱用防止高校生会議に参加してたくさんのことを体験し、学べたのではないかと思います。

今まで、薬物乱用についての講義は沢山してきましたが、正直覚えていることは全くありませんでした。しかし、今回自ら参加をすることで楽しみながら薬物乱用について学び知識を増やすことが出来ました。

薬用植物園では、大麻やけしなどを間近で見て、大麻の見分け方も教えてもらい大麻について深く知ることができました。他にも、薬物に関する植物など危険な植物についても知ることができました。とても貴重な体験ができたと思います。

薬物乱用防止高校生会議に参加して、たくさんの人に薬物の危険性や断り方などについて、よく考えてほしいなと思いました。今回学んだ事を多くの人に広めることができたらいいなと思います。